

農園便り 4

月号 (98号)

文責 筒口 典康

(2021/04/01)

春まきの葉物野菜を混ぜて蒔く タキイ種苗で用意されている葉物野菜の混合種を蒔いてみましたが、発芽状態が思わしくなかった。

3月になり、べんり菜、サニーレタス、春菊、ミズナなどを個々に買いまして、混ぜて蒔いてみました。発芽が大変ヨロシイ。

畝の上に、し尿豚糞・醗酵肥料「エンザ」を撒きまして三角鍬で2cm程度かきまわす(立ち位置)。混合種を蒔く⇒撒く。三角鍬で短冊状に抑えその後、板で軽く押さえる。散水。新聞紙2枚で被せる。1枚の所も作る。

鉢置きトレで紙を抑える。更に散水する。連日の温かさで、3日目には発芽が始まる(白い根)。家の光社「やさしい畑」記者撮影。(3/10)

全てが立ち位置からの作業。ホオカラククの作業である。被覆の新聞紙は2枚の方が調子が良い。1枚では乾燥気味になる。双葉が覗いたらすかさず覆いを取る⇒外す。

3/20、天気予報で強風豪雨との事で発芽した芽が流されるので、トレーの上にビニールシートをのせる。心配である。捕植用に播き床に混合葉物野菜を蒔いておく。小温室に置く。



前作のハクサイ、レタスを片付ける 有機肥「エンザ」 下種後、新聞紙2枚、十分散水する

サトウキビ、レモングラスが、関町南3丁目の区民農園で越冬できた。 地温を高めるために脇に樗の葉を伏せて置いた。サトウキビは越冬できないと思い布の鉢に取り込んで冷蔵庫近くに置いた。その鉢からも芽が出始めている。スチロールの箱に収容した里芋。ショウガ、クワイ、蓮根からも芽が出始めた。

東京も暖かくなりました。サトウキビも畑で越冬できるようになりました。

落ち葉を積み「糠」を振る。籾殻燻炭を撒く。藁を被せる。それで越冬できる。ミカンもオレンジも霜除けシートをかけなくても済むようになっています。

農園に置いたコンテナの中に、食用姫蓮根(誠蓮)、クワイ、セリ、クレソン、ホテイソウ、コシヒカリ、姫カワホネ、マツバモなどを植えて遊ぶ。メダカも繁殖している。

昨夜(3/21)、NHK「ダーウィンが来た！」の「メダカ特集」を見ることが出来ました。メダカの滝登り、落下してくる昆虫に襲い掛かる。海水の混ざる河口にも大繁殖。ボラと一緒に泳ぐ。溜水の池、緩い流れの小川。コンクリートの護岸に着いている藻に産卵している。棕櫚の樹皮に好んで産むというので毎年小池に置いて⇒入れて)いますが、プラスチックの池の壁に着いた藻で大丈夫のようである。

「蚊」の発生予防については触れていなかったのは、少々残念でした。川毎のメダカの遺伝子を守るという話もなかった。「須田孫七先生」が存命だったら黙ってはいないであろう。ま〜ア いいか、上石神井の日野さん(メダカ研究家)にこの辺の所をお聞きしましょう。と、……。 (故須田先生は、セミ博士の加藤先生の愛弟子である。練馬区の誌史から知る)

田舎(長野東御市)のお寺の池にも沢山メダカがおりました。西荻窪の淡水魚専門店では、水系のしっかり分かっている地メダカを手に入れることが出来ます。くれぐれも公園などの池や小川に放流しないようにしましょう。



緑色の「芝勝」ビル 何でも揃う



花鉢の管理が行き届いている 配色が良い

鉢物と花の専門店「芝勝」 元気元気のお二人のお嬢さんと、お母さんがニコニコ顔で応接してくれる。肥料は何でもそろろう。農協もかなわない。カニ殻、貝化石、蝙蝠糞、醗酵牛糞・馬糞、フランスパスツール研究所の「パイオポスト」(醗酵堆肥)も。野菜の苗は、このお店で探す。

お父さんは「芝作り」。見渡す限りの「芝」。青梅街道から上石神井千川道の広大な土地で作られていた。戦後の「昭和」は、ゴルフ場、芝のある庭が流行っていた時代でした。今も、庭師として活躍中。「芝勝城西企画」の社長さんである。業界で顔が利くせいなのか、何でもそろろう。

クロモジが欲しい。レンゲツツジ、イタヤカエデ、エンコウ杉は、… 探していただけ。つくばい石、石臼、灯籠。何でも揃う。そうそう、30年以上前になりますか、一茎二花の珍しい春蘭をいただいたことがあります。某邸宅の片付けで得たものとかいう。 3/26、春播き野菜の種、入荷する。

石神井公園(南田中)にお住まいだった、黒崎陽人先生(東洋ラン専門家故人)にもお見せしたかった「春蘭」である。我が家の小庭で、咲いている。
「芝勝」で仕入れたジャボチカバ、ミラクルフルーツが毎年実を付けて、10年になる。アセロラは枯らしてしまっただが、また仕入れよう。



農園 58 区を北側から見る 3 月 22 日 混播きの 薬物野菜 前作のハクサイとサニーレタス

自作の有機発酵肥料は、現在、麴菌⇒納豆菌の第 2 段階目を終了中。 怪我で、乳酸菌醗酵⇒酵母菌醗酵は、ストップ中……。

G A 東京のサロン(講習会)の時に、講師の草間先生からお聞きした。サカタ種苗の鉄肥(アグリ)は、クエン酸+酸化鉄であるとの事でした。

そこで、リンゴ酢+使用済のホッカイロ、で、キレートさせますと、赤茶色のキレイな液体になります。第 3 発酵は止めて、この鉄・リンゴ酢液で中和してみます。乳酸菌を使っての中和は止めにします。

第 4 醗酵の酵母菌醗酵には、酒粕・パン酵母を使います。酵母菌は非常に有効な菌であるようでありませう。微量要素(鉄)を菌体内に取り込むのではないかと……。やってみます。無機の鉄肥の数百倍の効力が生まれて来るであろうことを期待して……。やってみます。「醗酵自作肥料」の使用も楽しみであります。先ずは、「鉄肥」の大好きなトマトに使ってみます。



オカラ+糠+麴菌 セメントの床に穴あきトレ 麻袋に入れて醗酵を待つ 醗酵後の様子

西村和男「スローでたのしい有機農業コツの科学」七つ森書館。藤井一至「土 地球最後のナゾ 100 億人を養う土壌を求めて」光文社新書を読む。

悪い癖で、とにかく理屈を追い求める。そのような方むきの本である。

1、生きている土 2、植物の栄養 3、作物作りのコツ 4、病気、虫について、 5、ぐうたら独り言。⇒役に立つことが、理解しやすくかかれている。肥料のことは、目から鱗!!

藤井先生の内容は、 1、月の砂、火星の土、地球の土壌、 2、12 種類の土を探せ! 3、地球の土の可能性 4、日本の土と宮沢賢治からの宿題

⇒ 粘土についての話が具体的で理解しやすかった。 また、写真が多く挿入されていて解り易い。



藤井一至 西村和男 両氏の著書



千葉佐倉市、林重孝氏の有機無農薬の農場 CD

中学の技術・家庭科の東京都の先生方が集うグループに、「栽培委員会」がありますが、まとめて下さった松本先生がおられます。現在、石神井西中学校の講師としてお出でいただいております。そう、関町南3丁目農園の極近くの学校です。田中脳神経外科病院の隣の学校です。

松本先生は、技術科の「栽培学習」で、「大根の袋栽培」に取り組んでおりました。東京の公立中学校の生徒に「大根作りコンクール」も組織しまして、生物を育てる楽しみを教えておられます。学芸大学附属中学校も数校参加しまして、ワイワイガヤガヤと活動しています。松本さんは、現在栽培に関する教材を提供する会社の社長でもあると本人から聞いております。

現在、「環境」を扱う教科は、ありません。かろうじて、技術科の単元の中に「栽培学習」があるのみであります。

地球の状況が色々と壊れつつある中で、この「栽培」学習は大切であります。そして、十分に教えられる先生がおられないと言う現状でもあります。

さらに、技術科の「物作り＝造り＝創り」が失われつつあります。養成する大学が撤退しつつあります。教員として資格を獲得する若い先生が居なくなっているのもあります。採用試験を受験する若者が激減しているのもあります。先人の技術などを学び、理解し、再構築する能力・技術が失われつつあります。

このような状態が進んでいるのに新聞で取り上げられることは全くない。「国」は何を考えておるのでしょうか。松本先生の活動を応援していきたい。

生徒各自が20キロ入りの堆肥袋の中に用意された用土。堆肥と化成肥料8・8・8を混ぜる。大根の種子を蒔く。管理地に並べる……。追肥。3か月後の大収穫。松本先生おおいに語る。

相変わらず、農園で揶揄う人物の悪戯が続く 不快極まりない。(3/23) T